

R7.9.25. NO.20

1 年 1 組の国語の授業におじゃましました。

★新出漢字の指導★

新出漢字の学習でした。パソコン、テレビを効果的に使って、書き順や気を付けるべきところを指導されていました。特に字形について気を付ける点については、井口先生が一つずつ確認するのではなく、子どもたちに「どこか気を付けるところありそうかな？」と声をかけておられました。子どもたちは、ただ教えられるままに知識を得るのではなく、自分が気づいたことをみんなと伝え合うことで、理解が深まっていくようでした。気づいたことを発表しようと、ほとんどの子が手を挙げている姿が印象的でした。

★伝え合いの中で★

それぞれが前に出て発表することを行っているうちに、教室はどんどん盛り上がっていきました。その都度、言葉が足りない子に対しては、井口先生からの問い直しがあり、発表する子は、より全員に伝わる説明ができるように意識している様子でした。時々声が聞こえづらい場面もありましたが、すぐに先生が言い直すのではなく、発表する子がもう一度話したり、聞こえていた子が全員で声を合わせて、発表した子が話したことを言ったりすることで、全員で伝え合う場面となっていました。

★「を」「は」の指導とからめて★

習った漢字で文章をつくるときには、何人かの文章を板書し、全員で「を」や「は」の使い方について確認しておられました。その際、言葉と文章の違いについても触れておられました。すぐに理解することは難しくても、低学年のうちから意識づけしておくことで、読解力につながるのではと感じました。最後には絵本の読み聞かせをしておられました。なかには少しでもよく聞こうと、前へ前へ出てくる子も見られました。

～まとめ～

集中し続けることはとても大変なことです。続き具合は、学年や時間帯、教科や単元によって様々ですが、やはり、子どもたちが活動する場面を多く取り入れることは、集中を持続させることにつながるのではないかと考えます。教師がおさえるべき内容はあらかじめ何点かに絞っておき、そのポイントにたどり着くように子どもたちの活動を導くことができれば、学びに向かう姿勢につながるのではないのでしょうか。子どもたちが発表する場面では、つい、発表した子の話した内容をもう一度指導者側が話したり、まとめてしまったりしてしまいがちですが、別の子に言ってもらったり、全員で繰り返したりすることで、子どもたちの聞く力も育てることができるのではないと感じました。井口先生、1年1組のみなさん、ありがとうございました。

